

公の施設目標管理シート（直営）

問合せ先	025-386-0181
------	--------------

年度	令和3年度
施設名	新潟市北区郷土博物館(分館 横井の丘ふるさと資料館を含む) 所管部・課 北区地域総務課
施設の設置目的	市民の教育、芸術及び文化の向上を図るため、博物館法第2条第1項に規定する博物館として、新潟市北区郷土博物館を新潟市北区嘉山3452番地に設置する。 また、分館として、新潟市北区横井257番地1に横井の丘ふるさと資料館を置く。

当初予算(千円)	当初人員(人)	作成日	R3.4.1
歳入	251	正職員	3
歳出	13,976	会計年度任用職員	2
		修正日	
		評価日	R4.3.31

No.	視点	目標	評価指標					参考・補足	主な事業等	目標達成状況 未達成理由	評価	
			項目	H30実績	R1実績	R2実績	R3目標					R3結果
1	市民	入館者の増加	企画展等を実施して入館者数 年間6,500人以上 (単位:人)	9,141 (入館者: 8,265人、 館外事業 参加者: 876人)	9,068 (入館者: 8,895人、 館外事業 参加者: 173人)	6,497 (入館者: 6,242人、 館外事業 参加者: 255人)	6,500 (入館者: 6,250人、 館外 事業参加 者:250人)	7,478人 (入館者: 7,171人、 館外 事業参加 者:307人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>常設展拡大企画展の開催</li> <li>ふるさと学習の利用拡大</li> <li>美術企画展の開催</li> <li>恒例の「博物館まつり」においては、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。令和3年度は、感染拡大の影響を見ながら、時間や人数制限をしながら対策を取って、実施する方向。</li> <li>松蔭賞書道展、こども科学展の感染対策をとって実施の方向。</li> <li>来館者数は、令和2年度と同程度の入館者数とします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>常設展「阿賀北の大地と人々の暮らし」をテーマに教室等を開催</li> <li>「美術企画展 本の読みかた、愛しかた」の開催</li> <li>(小中学生公募)「松蔭賞書道展」「新潟市北区こども科学展」の開催</li> <li>「博物館まつり」</li> <li>美術企画展「眼と手のあいだ展」の開催</li> <li>常設展拡大企画「昭和のくらし一日々をいろどる「食」の風景」等の開催</li> <li>ふるさと学習の利用拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>常設展拡大企画展として「昭和のくらし展」をして「昔の子どもたちの日々」、「日々をいろどる「食」の風景」を開催しました。</li> <li>美術企画展「本の読みかた、愛しかた」、「眼と手のあいだ」を開催しました。「博物館まつり」は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から中止しましたが、感染対策をとり、代替事業「博物館で楽しむ琵琶の調べ」コンサートを実施しました。</li> <li>松蔭賞書道展は、表彰式を3回に分けて実施するなど、感染対策をとって実施しました。こども科学展も対策を取りながら、実施しました。</li> <li>新型コロナウイルス感染症対策のため休館した期間(R3.9.3～9.16)もありましたが、年間の入館者数は、昨年比で114.6%増でした。</li> </ul>	A:達成(優)
2	財務	歳入の増加	刊行物の販売収入年間104,000円以上 (単位:円)	161,700	141,300	103,360	104,000	147,450	<ul style="list-style-type: none"> <li>『常設展示案内』の活用と販売(今年度は、展覧会図録など、新規の有償刊行物の作成が予定されていないことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響で、遠方からの来館者の減少が予測されますので、令和2年度と同程度を目指します。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>常設展示「学習ノート」の販売</li> <li>常設展示ガイドブックの販売</li> <li>ガイドブック『北区のお宝ものがたり』</li> <li>そのほか企画展図録などの販売</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度は、新規に刊行物の作成はありませんでした。また、新型コロナウイルス感染症の懸念もありましたが、『北区のお宝マップ』の改訂に合わせてPRし、また県の観光事業にも参加するなどして、来館者の増加に取り組んだことなどから、刊行物等の販売は対前年比142.6%の増となりました。</li> </ul>	A:達成(優)
3	業務	市民との協働(講座回数)	ボランティアガイド養成講座開催を年間4回以上 (単位:回)	4	4	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>スキルアップ講座及び他館ボランティアとの交流会の開催 4回</li> <li>市民ガイドによる常設展示等の解説により、「北区の歴史と文化」をわかりやすく案内できる博物館づくりを促進します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民ガイドのスキルアップ及び活動の拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民ガイドのスキルアップ講座を年間4回実施しました。</li> <li>小学3年生・4年生の「ふるさと学習」の際は、「常設展示」等の解説を分かりやすく案内しました。</li> </ul>	A:達成(優)
4	人材	人材育成	職員の職場内外の研修会参加延べ6回以上 (単位:回)	4	12	8	6	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>H29年度までは、職場内の研修会の実施回数で目標設定しましたが、H30年度以降は、職場の外の研修への参加を含めて目標を設定しています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、講演会や講習会が中止されたこともあり、職場内研修3回、館外研修3回を目指します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>常設展拡大企画について、職員全員共通理解を深めるための職場内研修</li> <li>歴史、民俗、美術等専門分野の研鑽</li> <li>その他博物館業務に有効な研修会への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>常設展拡大企画展(2回)、美術企画展(2回)について、館内職員全員で共通理解を深める研修を実施した。</li> <li>個々の職員の業務関連及び専門分野の研鑽を行い、個々の知識とスキルの上昇、業務の正確性と効率化に寄与した。</li> </ul>	A:達成(優)

取り組みについて(目標設定の考え方など)	総合評価(評価を踏まえた課題分析・方向性など)
<ul style="list-style-type: none"> <li>常設展「阿賀北の大地と人々の暮らし」や常設展拡大企画の充実により、多くの市民が地域の歴史や文化を知ることができるとともに、北区の魅力を発見できる博物館づくりを目指します。</li> <li>小学校等の「ふるさと学習」の利用拡大を図るなど普及活動に取り組みます。</li> <li>市民ガイドとの協働によるわかりやすい解説に努め、市民が気軽に利用できる博物館づくりを目指します。各種団体・関係機関との連携を図り、様々な機会に利用できる博物館づくりを目指します。</li> <li>農民運動として全国的に有名な有名木崎村小作争議は、令和4年度に100周年を迎えます。100周年には企画展などを予定しています。これに向け今年度は、指定文化財の修復と令和4年度の企画展、講演会の開催に向け、チラシ・パンフレットの作成、展示の準備に取り組みます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>常設展「阿賀北の大地と人々の暮らし」や常設展拡大企画の実施により、多くの市民から地域の歴史や文化を知ることにより、北区の地域の魅力を再発見できるよう博物館事業を実施しました。</li> <li>区内・市内の小・中学校と連携して、「松蔭賞書道展」や「こども科学展」を実施しました。また、小学校の「ふるさと学習」のサポートとして、当館の利用拡大を図るなど、普及活動に取り組みました。</li> <li>市民ガイドのスキルアップを図るための講座も実施しながら、区内小学生の「ふるさと学習」の際のガイドも担い、館との協働し、分かりやすい解説に向けて取り組みました。</li> <li>令和4年度に100周年を迎える木崎村小作争議の企画展示に向け、市指定文化財である木製看板の修復と、展示会パンフレット・チラシ・ポスターの作成を行いました。合わせて、講演会、現地見学会、区内中学生見学会に実施に向け準備を行いました。</li> </ul>